

IV

令和8年度版

河川水辺の国勢調査 基本調査マニュアル

[河川版]

(植物調査編)

国土交通省水管理・国土保全局河川環境課

令和7年9月 改定

目 次

IV 植物調査編	IV-1
1. 調査概要	IV-1
2. 事前調査	IV-3
3. 現地調査計画の策定	IV-5
4. 現地調査	IV-8
5. 調査結果とりまとめ	IV-21
6. 考察・評価	IV-25
7. 様式集	IV-27

1. 調査概要

1.1 調査目的

本調査は、河川における植物の生育状況を把握することを目的とする。

1.2 調査対象

本調査では、維管束植物(シダ植物及び種子植物)を調査対象とする。なお、逸出が確認された栽培種については調査対象とするが、明らかに植栽されたものについては調査対象としない。

1.3 調査区域(調査対象河川区間)

調査区域(調査対象河川区間)は、当該水系において、それぞれの事務所等が管轄する河川の区間を調査対象河川区間とする。

1.4 調査内容

本調査では、現地調査を中心に文献調査、聞き取り調査も行う。現地調査は基本的に目視確認により行う。

1.5 調査頻度

本調査は、10年に1回以上の頻度で実施する。

1.6 調査手順

本調査の手順は、以下に示すとおりである。

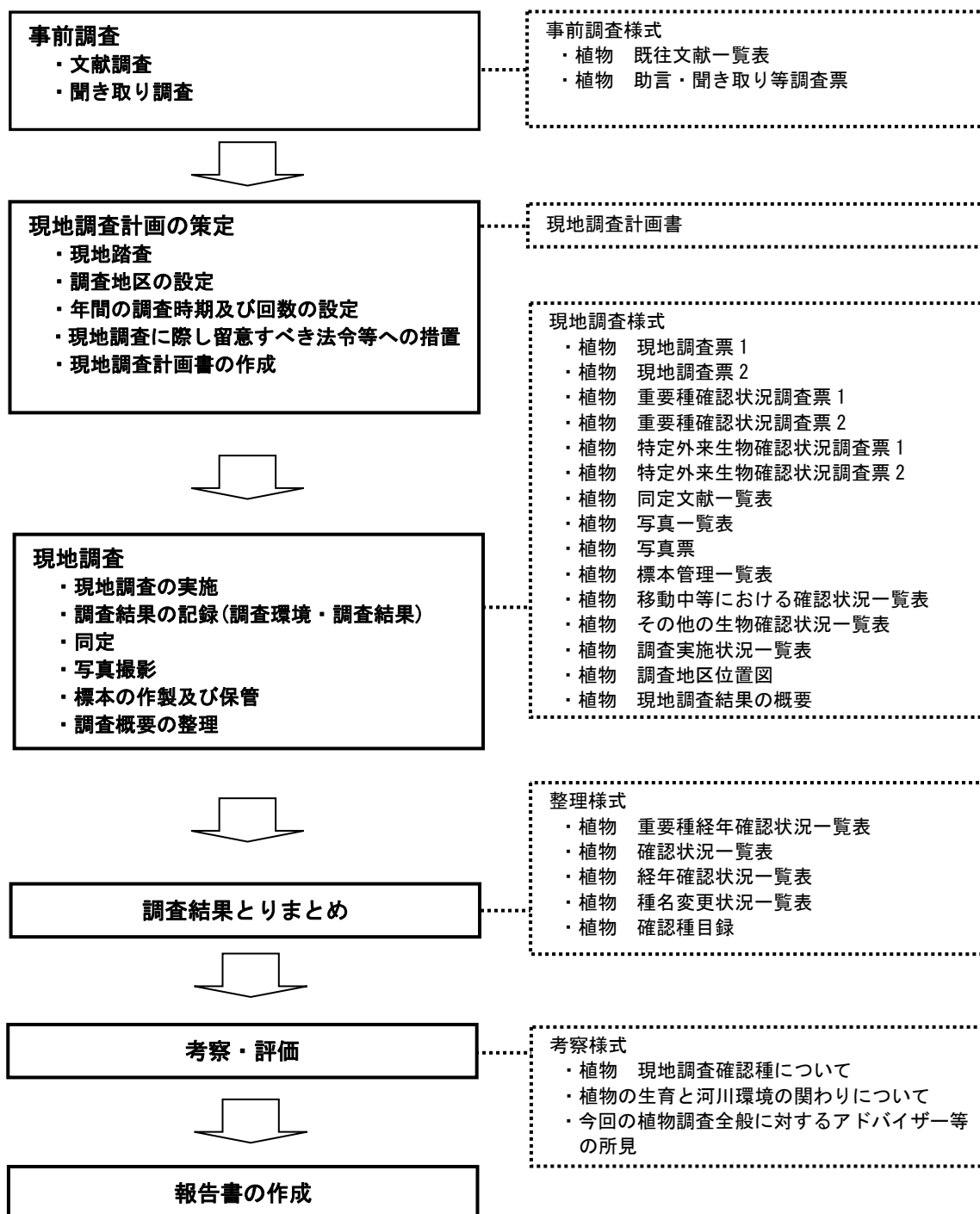


図 1.1 植物調査の手順

2. 事前調査

現地調査計画を策定するために、事前調査を実施する。事前調査では、文献調査及び聞き取り調査を実施することにより、当該水系における植物に関する諸情報をとりまとめる。

現地調査を年度初めに実施する場合には、事前調査を現地調査実施の前年度に行っておくと、現地調査を円滑に実施しやすい。

なお、文献、報告書等の収集及び聞き取り相手の選定にあたっては、河川水辺の国勢調査アドバイザー等学識経験者等の助言を得るようにする。

2.1 文献調査

文献調査では、既往の河川水辺の国勢調査の結果、河川水辺総括資料の内容、前回の河川水辺の国勢調査以降に発行・作成された文献、河川水辺の国勢調査以外の報告書等を収集し、調査区域における植物の生育状況についての情報を中心に把握する。既往の河川水辺の国勢調査の結果における、その他の生物の記録(「その他の生物確認状況一覧表」)を確認し、植物の確認記録がある場合は、それらも把握しておく。

文献、報告書等は、調査対象河川に限定せず、当該水系全体に係る文献を可能な限り原典で収集し、各事務所等において保管しておくことが望ましい。

文献の検索については、CiNii(国立情報学研究所)、J-STAGE(科学技術振興機構)等のインターネット等による文献検索サービスを利用するとよい。

文献調査を実施した文献、報告書等について、以下の項目を整理する(事前調査様式 1)。

- (ア) 収集文献 No.: 文献ごとに発行年順に付番する。
- (イ) 文献名: 文献、報告書等のタイトルを記録する。
- (ウ) 著者名: 著者、編者、調査者等の氏名を記録する。
- (エ) 発行年: 文献、報告書等が発行・作成された年(西暦)を記録する。
- (オ) 発行元: 出版社名、事務所等名等を記録する。
- (カ) 入手先: 文献、報告書等の入手先を記録する。

2.2 聞き取り調査

聞き取り調査では、河川水辺の国勢調査アドバイザー等学識経験者等に聞き取り等を行い、調査区域周辺の植物相、重要種、外来種及び特筆すべき種の生育状況、確認しやすい時期等についての情報に加え、既往調査文献の有無、調査地区、調査時期等に対する助言等を整理する。

聞き取りに際しては、「植物 既往文献一覧表（事前調査様式 1）」にとりまとめて持参し、聞き取り調査の効率化を図る。

なお、聞き取り相手の選定にあたっては、既往の聞き取り先を参考に、河川水辺の国勢調査アドバイザー等学識経験者等の助言を得るようにし、調査区域周辺の実態に詳しい機関や個人(博物館、植物園、大学、専門家、学校の教員、各種愛好会・同好会等)を対象にする。

河川水辺の国勢調査アドバイザー等学識経験者等の助言から得られた情報・知見について、以下の項目を整理する（事前調査様式 3）。

- (ア) 聞き取り No.: 助言を得た順又は聞き取り調査を行った順に付番する。
- (イ) 相手: 助言者又は聞き取り調査対象者の氏名、所属機関を記録する。
- (ウ) 当方: 助言を得た者又は聞き取り調査実施者の氏名、所属機関を記録する。
- (エ) 日時: 年月日(年は西暦)及び開始時刻及び終了時刻(24 時間表示)を記録する。
- (オ) 場所: 聞き取り調査等を実施した場所を記録する。メール、電話等により実施した場合はその旨を記録する。
- (カ) 助言の内容: 既往調査文献(留意すべき情報、特筆すべき情報等が掲載されている文献)の有無、調査地区・時期の設定、調査方法等に対する助言の内容を記録する。
- (キ) 重要種、外来種、特筆すべき種に関する情報: 現地調査に際して留意する必要がある重要種、外来種、特筆すべき種について、生育状況、確認しやすい時期等を記録する。
- (ク) その他: その他特筆すべき情報があれば記録する。

3. 現地調査計画の策定

現地調査の実施にあたって適切な調査結果が得られるように、各水系で作成されている最新の「全体調査計画書」、既往の河川水辺の国勢調査成果及び事前調査の結果を踏まえ、現地踏査、調査地区の設定、年間の調査時期及び回数の設定を行い、現地調査計画を策定する。

現地調査を年度初めに実施する場合には、現地調査計画の策定を調査実施の前年度に行うと、調査を円滑に実施しやすい。

なお、現地調査計画の策定にあたっては、必要に応じて、河川水辺の国勢調査アドバイザー等学識経験者等の助言を得る。

3.1 現地踏査

現地調査計画の策定にあたっては、全体調査計画及び事前調査の結果を踏まえ、調査対象河川の現地踏査を行う。現地踏査では、全体調査計画で設定した調査地区の確認を行う。また、各調査地区の特徴を整理するとともに、概観がわかる写真を随時撮影する。

なお、全体調査計画で設定された各調査地区の確認は、以下の視点により行う。

- (ア) 植物の生育環境の視点からの調査地区の妥当性
- (イ) 地形や土地利用状況等の変化や工事等による影響による調査地区変更の必要性
- (ウ) 調査地区へのアプローチの容易性
- (エ) 調査に際しての安全性

3.2 調査地区の設定

調査地区は、基本的に全体調査計画に従う。ただし、事前調査及び現地踏査の結果を踏まえ、全体調査計画策定時の調査地区等の設定根拠と著しく状況が変化している場合等、調査地区として不適当な場合については、「河川水辺の国勢調査 基本調査マニュアル[共通版]」の「全体調査計画策定の手引き」を参考に、必要に応じて設定し直す。なお、調査地区を再設定した場合は、新たな調査地区の設定根拠について整理しておく。

3.3 年間の調査時期及び回数の設定

現地調査は、春から初夏と秋を含む2回以上実施する。

年間の調査時期及び回数は、基本的に全体調査計画に従い、事前調査及び現地踏査の結果、調査実施当該年度における気象条件や開花状況等を踏まえ、適切に設定するものとする。

なお、設定に際しては、必要に応じて「河川水辺の国勢調査 基本調査マニュアル[共通版]」の「全体調査計画策定の手引き」を参考にする。また、調査時期の設定根拠について整理しておく。

3.4 現地調査に際し留意すべき法令等

現地調査に際しては、以下に示す法令等に十分留意する。

なお、法令等によっては、事前に申請が必要となる場合がある。申請後、許可を得るまでに日数がかかる場合があるため、調査時期を考慮して早めに準備を行う。

表 3.1 現地調査に際し留意すべき法令等

法令等	関連機関 ^{※1}
文化財保護法	文化庁
絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律	環境省
自然公園法	環境省
特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律	環境省等
その他の都道府県・市町村の条例	都道府県・市町村

※1: 都道府県の関係部局が担当している場合がある。

(ア) 天然記念物を採集する場合又は採集する可能性がある場合は、天然記念物の現状変更該当するため、「文化財保護法」に基づき、文化庁・都道府県等に申請を行い許可を得る必要がある。

(イ) 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種を捕獲・採集する場合又は捕獲・採集の可能性のある場合は、あらかじめ環境大臣と協議を行う必要がある。

(ウ) 「自然公園法」の特別地域、特別保護地区での指定植物を採集する場合には、国立公園にあっては環境大臣、国定公園・県立公園にあっては都道府県知事の許可を受けなければならない。また、指定期間中、立入りが規制される区域があるため留意する。

(エ)「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」において、海外起源の外来生物であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの又は及ぼすおそれがあるものの中から指定された「特定外来生物」については、その飼養、運搬等が規制されているため、事前に対象種を確認しておく。

(オ)自治体の条例等によっては、採集された外来種の再放逐が禁止されていることがあるため、事前に確認しておく。

3.5 現地調査計画書の作成

以上の内容を踏まえ、現地調査計画書を作成する。

なお、現地調査計画書は、現地調査実施時の状況に応じて随時変更・充実を図るものとする。

4. 現地調査

現地調査は、目視による確認を基本とし、各調査地区における植物の生育状況を把握できるように努める。なお、現地調査の実施にあたっては、特に安全性に留意するとともに、生息数が少ない生物や湿地・たまり等の貴重な環境にできるだけ影響を与えないように十分配慮する。また、必要に応じて、河川水辺の国勢調査アドバイザー等学識経験者等の同行を仰ぎ、適切な調査が実施できるように助言を得る。

現地調査に際しての留意事項は、以下に示すとおりである。

- (ア) 各調査者は、調査目的(「1.1 調査目的」参照)を十分理解し、適切な調査結果が得られるように努める。
- (イ) 各調査者は、採集に係る許可証(必要に応じて許可証の写し)を必ず携行する。
- (ウ) 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」では、特定外来生物の飼養、運搬等が規制されているため留意して取り扱う。
- (エ) 自治体の条例等によっては、採集された外来種の再放逐が禁止されていることがあるため留意する。

4.1 調査方法

現地調査は、調査地区内を歩きながら、生育する種を目視(木本については必要に応じて双眼鏡を使う)により確認し、和名を記録するとともに、調査ルートを河川環境基図等背景図に記録する。

重要種や特定外来生物が確認された場合には、確認された位置と生育状況等を記録する。

調査努力量は、1 調査地区あたり 2 人で 3～4 時間とし、調査地区の規模や状況に応じて調整する。

調査にあたっては、以下の点に留意する。

- (ア) 調査地区内に存在する植物群落を出来るだけ網羅するように調査ルートを設定する。
- (イ) 既往の植生図や空中写真等を持参して、調査地区内の植物群落の位置を確認しながら歩くようにする。
- (ウ) 河川においては、水分条件、冠水頻度等に応じて生育する種が横断方向に変化することから、水際から堤防表法肩までを確認する。また、水際部に生育する

種についても十分確認する。

(エ) 事前調査及び既往の河川水辺の国勢調査の結果より、当該調査地区において過去に重要種が確認されていた場合は、それらの生育の可能性を念頭において調査を行う。

(オ) 現地での同定が困難な植物については、標本作製し、後日詳細に同定する。
ただし、重要種についてはできるだけ標本作製せず、写真を撮影し、後日確認できるように確認位置を記録する。

4.2 調査結果の記録

現地調査における調査結果について、以下のとおり記録する。

4.2.1 調査時の状況

調査時期、調査時刻、天候等について、以下の項目を記録する(現地調査様式 1、2、3、4、5 及び 6)。

(ア) 調査回、季節、調査年月日: 調査回、季節、調査年月日(年は西暦)を記録する。

(イ) 調査時刻、調査時間(時間): 調査開始時刻及び調査終了時刻(24 時間表示)、調査時間(時間)を記録する。

(ウ) 天候: 調査時の天候を記録する。

4.2.2 確認状況

植物の確認状況について、以下のとおり記録する。

(1) 確認状況

植物の確認状況について、以下の項目を記録する(現地調査様式 1 及び 2)。

(ア) 和名: 確認された植物の和名を記録する。

(イ) 重要種: 重要種について記録する。

(ウ) 特定外来生物: 特定外来生物について記録する。

(エ) 備考: 重要種及び特定外来生物については確認場所、確認環境、株数等を記録する。また、種まで同定できなかった場合は、その理由を記録する(例: 雑種、新たに侵入した外来種で図鑑に記録がない、開花前のため同定の根拠となる部位

が確認できない。)。また、その他特筆すべき情報があれば必要に応じて記録する。

- (オ) 特記事項: 調査地区の特徴や植物の生育に関わりがあると思われる状況等、調査時に気付いたことがあれば記録する。また、前回からの大きな変化があれば記録する(例: 周辺植生、地形等の特徴、草刈り・火入れ等が行われていた場合その記録、その他(砂利採取や河川工事等))。
- (カ) 調査責任者、調査担当者、同定者: 調査責任者、調査担当者、同定者の氏名、所属機関を記録する。
- (キ) 調査地区の範囲: 調査地区の範囲を河川環境基図等背景図に記録する。また、背景図の作成年度を記録しておく。
- (ク) 調査ルート: 調査ルートを記録する。
- (ケ) 写真の撮影場所と撮影方向: 調査地区の状況の写真を撮影した位置と撮影方向を記録する。

(2) 重要種の確認状況

各重要種の確認状況について、確認位置ごとに以下の項目を記録する(現地調査様式 3 及び 4)。

- (ア) 重要種確認 No.: 各重要種の確認位置ごとに付番する。
- (イ) 和名: 確認された重要種の和名を記録する。
- (ウ) 備考: 重要種ごとに確認位置、確認環境、株数等を記録する。また、その他特筆すべき情報があれば必要に応じて記録する。
- (エ) 特記事項: 特記事項があれば記録する。
- (オ) 調査責任者、調査担当者、同定者: 調査責任者、調査担当者、同定者の氏名、所属機関を記録する。
- (カ) 調査地区の範囲: 調査地区の範囲を河川環境基図等背景図に記録する。また、背景図の作成年度を記録しておく。
- (キ) 重要種の確認位置: 重要種の確認位置に重要種確認 No.を記録する。

(3) 特定外来生物の確認状況

各特定外来生物の確認状況について、確認位置ごとに以下の項目を記録する(現地調査様式 5 及び 6)。

- (ア) 特定外来生物確認 No.: 各特定外来生物の確認位置ごとに付番する。
- (イ) 和名: 確認された特定外来生物の和名を記録する。
- (ウ) 備考: 特定外来生物ごとに確認場所、確認環境、株数等を記録する。また、その他特筆すべき情報があれば必要に応じて記録する。
- (エ) 特記事項: 特記事項があれば記録する。
- (オ) 調査責任者、調査担当者、同定者: 調査責任者、調査担当者、同定者の氏名、所属機関を記録する。
- (カ) 調査地区の範囲: 調査地区の範囲を河川環境基図等背景図に記録する。また、背景図の作成年度を記録しておく。
- (キ) 特定外来生物の確認位置: 特定外来生物の確認位置に特定外来生物確認 No.を記録する。

4.3 同定

同定にあたっては、国土交通省水管理・国土保全局の河川環境データベース(河川水辺の国勢調査)ホームページで公開されている「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」に挙げられている「種の同定にあたっての参考文献および留意事項」を活用する。種名の表記及び並び順については、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」に従う。なお、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」及び「種の同定にあたっての参考文献および留意事項」は、毎年調査結果を踏まえ更新を行っているため、活用の際は事前に必ず最新版を確認する。

4.3.1 同定に際しての留意事項

同定に際して留意すべき事項を以下に示す。

- (ア) 種・亜種・変種・品種まで同定できない場合は、和名については、“〇〇属”、学名については、“〇〇 sp.”と表記する(平成 9 年度版マニュアルでは、“〇〇属の一種”と“〇〇属の数種”、“〇〇 sp.”と“〇〇 spp.”をそれぞれ区別していたが、今後は区別しない。)。なお、種・亜種・変種・品種まで同定できなかった場合

は、その理由を記録する(例: 雑種、新たに侵入した外来種で図鑑に記録がない、開花前のため同定の根拠となる部位が確認できない)。

(イ) 属より上位の分類群までしか同定できない場合については、記録しない。

(ウ) 現地調査時における同定を正確かつ迅速に行うように努めるため、植物の分類に詳しい者が現地調査を担当する。

(エ) 同定が困難な種については、標本の作製を確実に行う。ただし、重要種の可能性がある場合には、できるだけ写真撮影のみにとどめることが望ましい。

4.3.2 同定上特に留意すべき種

同定にあたっては、以下の種に特に留意する。

(1) 類似種が多数有り、識別に注意を要する分類群に属する種

ヤナギ科、タデ科、イネ科、スゲ属等に属する種。

(2) 最近、新たに侵入した外来種を多く含む分類群に属する種

キク科、イネ科、カヤツリグサ属等に属する種。

(3) 初めて確認された種

調査区域において既往の河川水辺の国勢調査で確認されておらず、今回の現地調査で初めて確認された種。

4.3.3 同定文献の整理

同定の際に用いた文献について、以下の項目を記録する(現地調査様式 7)。

(ア) 同定文献 No.: 文献ごとに発行年順に付番する。

(イ) 文献名: 文献、図鑑等のタイトルを記録する。

(ウ) 著者名: 著者、編者の氏名を記録する。

(エ) 発行年: 文献が発行された年(西暦)を記録する。

(オ) 発行元: 文献の出版社名等を記録する。

(カ) 分類群: 同定の対象となる分類群や種名を記録する。

4.4 写真撮影

4.4.1 写真撮影

現地調査実施時に以下のような写真を撮影する。

(1) 調査地区の状況

各調査地区及び周辺の概観がわかるような写真を調査回ごとに撮影する。

なお、季節的な変化等がわかるように、できるだけ同じ範囲を撮影することが望ましい。

(2) 調査実施状況

調査時の状況がわかるような写真を撮影する。

(3) 生物種

重要種について、特徴や生育環境がわかるような写真を確認された種ごとに撮影する。

4.4.2 写真の整理

撮影された写真について、以下の項目を記録する(現地調査様式 8 及び 9)。

(ア) 写真番号: 写真票を整理する際につけた番号を記録する。

(イ) 写真区分記号: 撮影した写真について以下の写真区分記号のいずれかを記録する。

表 4.1 写真区分記号

写真区分記号	撮影対象
p	調査地区等
c	調査実施状況
s	生物種
o	その他

(ウ) 写真表題: 写真表題を記録する。生物種の写真の場合は、その和名を記録する(例: 調査地区の状況、ミゾコウジュ)。

(エ) 説明: 撮影状況、生物種についての補足情報等を記録する(例: ○○橋より下流方向、水際に 10 株生育)。

(オ) 撮影年月日: 写真を撮影した年月日(年は西暦)を記録する。

- (カ) 地区番号: 写真を撮影した地区番号を記録する。
- (キ) 地区名: 写真を撮影した地区名を記録する。
- (ク) 距離(km): 河口からの距離(支川・支々川の場合は合流点からの距離)(km)を記録する。
- (ケ) 位置: 写真を撮影した位置について左岸・右岸・中洲・その他のいずれかを記録する。
- (コ) ファイル名: 写真(電子データ)のファイル名を記録する。ファイル名の先頭には写真区分記号(「表 4.1 写真区分記号」参照)を付記し、撮影対象がわかるような名前を付けるようにする。なお、禁則文字及び半角カタカナは使用しない。

4.5 標本の作製及び保管

4.5.1 標本の作製

確認された種のうち、「4.3.2 同定上特に留意すべき種」で対象となっている種、河川水辺の国勢調査アドバイザー等学識経験者等により指摘された同定が困難な種等を対象に、必要に応じて標本を作製する。

標本の作製及び保管にあたっては、後日再同定の必要が生じた場合や寄贈する場合に、対象となる標本を容易に取り出せるように、適宜工夫することが望ましい。

(1) 現地調査時の作業

現地調査時の作業は、以下の点に留意して行う。

- (ア) 草本植物の場合は根から全草を、木本植物の場合は葉と花、あるいは果実のついた枝を採集することが望ましい。
- (イ) 根ごと採集された植物は根を洗って泥を落とす。また、付着した昆虫類があれば落とす。
- (ウ) 花卉や葉の収縮を防ぎ、脱落しやすい花卉や托葉、種子等を保護するために、野冊等を用いて採集後現地ですぐに「はさみ紙」に挟み込んでおくといよい。

(2) 室内作業

持ち帰った植物標本は、腐食による変色、変形を防ぐため、素早く乾燥させることが重要である。通常、標本は「はさみ紙」に挟み込み、「吸いとり紙」又は送風乾燥機により十分乾燥させる。また、乾燥してから標本害虫に食害される可能性があるため、摂氏－20℃

以下の冷凍処理等を行い、駆除することが望ましい。

なお、標本とともに標本ラベル(「(4) 標本ラベルの作成」参照)を「はさみ紙」に挟み込む。

(3) 標本情報の記録

作製した標本について、以下の項目を記録する(現地調査様式 10)。

(ア) 標本 No.: 標本 No.を記録する。

(イ) 科名(和名)、科名(学名): 科名を和名と学名で記録する。

(ウ) 和名、学名: 和名と学名を記録する。

(エ) 水系名、河川名、地区名、地区番号: 水系名、河川名、地区名、地区番号を記録する。

(オ) 採集地の地名: 都道府県名、市町村名、詳細地名を記録する。

(カ) 緯度・経度: 各調査地区の範囲の中心点の緯度・経度を記録する。測地系は JGD2024/ (B, L) とする (10 進法)。

(キ) 採集者(所属機関): 採集者の氏名、所属機関を記録する。

(ク) 採集年月日: 採集された年月日(年は西暦)を記録する。

(ケ) 同定者(所属機関): 同定者の氏名、所属機関を記録する。

(コ) 同定年月日: 同定された年月日(年は西暦)を記録する。

(サ) 備考: 特記事項がある場合には記録する(例: 標本の状態(破損等)、博物館登録番号)。

(シ) 標本の形式: 標本の作製形式を記録する(例: さく葉標本)。

(4) 標本ラベルの作成

標本ラベルには、標本 No.、学名、和名、科名を表記する。また、水系名、河川名、地区名、地区番号、採集地の地名、緯度・経度、採集年月日、採集者名、同定年月日、同定者名についても表記する。標本ラベルの用紙には、薄い中性紙を使用する。印刷の際は、顔料系インクジェットプリンターもしくはレーザープリンターにてグレースケール印刷(白黒印刷)する。

1	ー(ア)
<i>Bolboschoenus planiculmis</i>	ー(イ)
イセウキヤガラ	ー(ウ)
カヤツリグサ科	Cyperaceae ー(エ)
▲▲川水系 ▲▲川 河口部 ▲▲■1	ー(オ)
[東京都〇〇市△△]	ー(カ)
35. 1234767, 139. 1234567 (JGD2024)	ー(キ)
採集年月日: 20XX. 5. 25	ー(ク) 採集者: ●● ●●(〇〇研究所) ー(ケ)
同定年月日: 20XX. 5. 30	ー(コ) 同定者: ▲▲ ▲▲(△△研究所) ー(サ)

図 4.1 標本ラベル

- (ア) 標本 No.: 標本 No.を表記する。
- (イ) 学名: 学名を表記する。
- (ウ) 和名: 和名をカタカナで表記する。
- (エ) 科名: 科名をカタカナと学名で表記する。
- (オ) 水系名、河川名、地区名、地区番号: 水系名、河川名、地区名、地区番号を日本語(漢字又はひらがな、カタカナ、アラビア数字)で表記する。
- (カ) 採集地の地名: 都道府県名、市町村名、詳細地名を日本語(漢字又はひらがな、カタカナ)で表記する。
- (キ) 緯度・経度(測地系): 各調査地区の範囲の中心点の緯度・経度を表記する。また、緯度・経度の測地系を表記する。測地系は JGD2024/ (B, L) とする (10 進法)。
- (ク) 採集年月日: 採集された年月日(年は西暦)をアラビア数字で表記する。
- (ケ) 採集者: 採集者の氏名、所属機関を日本語で表記する。
- (コ) 同定年月日: 同定された年月日(年は西暦)をアラビア数字で表記する。
- (サ) 同定者: 同定者の氏名、所属機関を日本語で表記する。

4.5.2 標本の保管

標本の保管期間は、スクリーニングによる確認種目録の確定まで(調査実施年度の翌年度末まで)とする。

標本は、密閉できる袋又は容器に防虫剤、乾燥剤とともに密封し、必要に応じて防虫剤、乾燥剤の入れ替え等の管理を行い確実に保管する。

保管期間満了後は、博物館等の研究機関等の標本の受け入れ先を幅広く探し、有効活用を図る。

また、博物館等の研究機関等の受け入れ先のない場合等には、募集する等してできるだけ受け入れ先を探すものとする。受け入れ先のない標本については廃棄してもよい。

なお、保管期間満了前(調査実施当該年度)より、各受け入れ先において標本の保管を行ってもよいが、再同定の必要が生じた場合に、対象となる標本を良好な状態で速やかに提出できるようにしておくことが必要である。

4.6 移動中等における確認種の記録

調査地区間の移動中等(調査地区の範囲外や調査時間外)に植物が確認された場合には、重要種、特定外来生物及び特筆すべき種に限り、必要に応じて調査地区内で確認された植物とは別に、以下の項目を記録する(現地調査様式 11)。

なお、対象範囲は調査区域内とする。また、移動中等の確認種の記録は、あくまで補足情報の収集であるため、本来の調査に支障をきたさない範囲で行う。

(ア) No.: 連番で付番する。

(イ) 和名: 確認された植物の和名を記録する。

(ウ) 重要種: 重要種について記録する。

(エ) 特定外来生物: 特定外来生物について記録する。

(オ) 写真、標本: 写真を撮影したり、標本を作製した場合は記録する。

(カ) 河川名、距離(km): 確認された河川名、河口からの距離(支川・支々川の場合は合流点からの距離)(km)を記録する。

(キ) 位置: 確認された位置について左岸・右岸・中洲・その他のいずれかを記録する。

(ク) 緯度・経度: 確認された位置の緯度・経度を記録する。測地系は JGD2024/ (B,L) とする (10 進法)。

(ケ) 調査年月日: 確認された年月日(年は西暦)を記録する。

(コ) 確認状況: 周辺環境、個体数等を記録する。

(サ) 同定者(所属機関): 同定者の氏名、所属機関を記録する。

4.7 その他の生物の記録

現地調査時に両生類・爬虫類・哺乳類等を目撃した場合や、死体を発見した場合等には、それらが重要種、特定外来生物及び特筆すべき種のいずれかであり、かつ現地で同定可能なものに限り、必要に応じて「その他の生物」として以下の項目を記録する(現地調査様式12)。

誤同定を避けるため、無理な同定は行わないようにする。捕獲・採集した生物については写真撮影を行い、できるだけ標本を作製する。目撃した生物については、写真撮影を行うことが望ましい。

なお、その他の生物の記録は、あくまで補足情報の収集であるため、本来の調査に支障をきたさない範囲で行う。

(ア) No.: 連番で付番する。

(イ) 生物項目: 確認された生物の項目を記録する。

(ウ) 目名、科名、和名、学名: 確認された生物の目名、科名、和名、学名を記録する。

(エ) 写真、標本: 写真を撮影したり、標本を作製した場合は記録する。

(オ) 地区番号: 確認された地区番号を記録する。調査地区外で確認された場合は「調査地区外」と記録する。

(カ) 河川名、距離(km): 確認された河川名、河口からの距離(支川・支々川の場合は合流点からの距離)(km)を記録する。

(キ) 位置: 確認された位置について左岸・右岸・中洲・その他のいずれかを記録する。

(ク) 緯度・経度: 確認された位置の緯度・経度を記録する。測地系は JGD2024/ (B,L) とする (10 進法)。

(ケ) 調査年月日: 確認された年月日(年は西暦)を記録する。

(コ) 確認状況: 確認の方法、周辺環境、個体数等を記録する。

(サ) 同定者(所属機関): 同定者の氏名、所属機関を記録する。

4.8 集計の際の留意点

調査結果のとりまとめにあたって、種数を集計する際の留意点及び整理番号の付け方を以下に示す。

4.8.1 集計の際の留意点

種数の集計に際しては、種・亜種・変種・品種までの同定がされていないものについても、同一の分類群に属する種がリストアップされていない場合は計上する。

【種・亜種・変種・品種まで同定されていない種の集計方法(*Carex* 属の場合の例)】

“*Carex* 属”の場合、他に *Carex* 属に属する種(アゼスゲ等)がリストアップされている場合には計上せず、他に *Carex* 属に属する種がリストアップされていない場合は1種として計上する。

4.8.2 整理番号の付け方

整理番号は、「4.8.1 集計の際の留意点」に基づき、集計対象とする種に付番する。付番にあたっては、種ごとに重複のないように注意する。

なお、種の配列については、国土交通省水管理・国土保全局のホームページで公開されている「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」に従う。

【整理番号の付け方】

No.	科名	和名	学名
1	カヤツリグサ科	アゼナルコ	<i>Carex dimorpholepis</i>
2		アゼスゲ	<i>Carex thunbergii</i>
		<i>Carex</i> 属	<i>Carex</i> sp.
3		<i>Scirpus</i> 属	<i>Scirpu</i> sp.

“*Carex* 属”は他に *Carex* 属に属する種(“アゼナルコ”、“アゼスゲ”)がリストアップされているため、計上せず、整理番号をつけない。しかし、“*Scirpus* 属”は、他に *Scirpus* 属に属する種がリストアップされていないため、計上し、整理番号をつける。

4.9 調査概要の整理

今回現地調査を実施した調査地区、調査時期、調査結果の概要について、以下の項目を整理する。

4.9.1 調査実施状況の整理

今回現地調査を実施した調査地区、調査時期について、以下の項目を記録する(現地調査様式 13)。

(ア) 調査地区: 河川名、河川環境縦断区分、地区番号、地区名、河口からの距離(支川・支々川の場合は合流点からの距離)(km)、位置、総合調査地区、河床勾配、地区の特徴、調査地区選定根拠を記録する。また、前回の河川水辺の国勢調査を実施した調査地区との対応、全体調査計画との対応についても記録する。

(イ) 調査時期: 調査回、季節、調査年月日、調査時期選定根拠、調査を実施した地区番号を記録する。

4.9.2 調査地区位置図の作成

当該調査区域における調査地区の位置が把握できるように、主要な堰、橋梁、ダム等を記入した概要図や管内図等に調査地区の位置を記録する。また、調査対象河川、直轄管理区間、河川環境縦断区分を記録する。なお、スケールと方位を必ず記録する(現地調査様式 14)。

4.9.3 現地調査の結果の概要の整理

現地調査の結果の概要について、以下の内容を整理する(現地調査様式 15)。

(ア) 現地調査結果の概要: 現地調査の結果の概要を整理する(例: 確認種の特徴、周辺環境(植生、土地利用等)との関連等)。

(イ) 重要種に関する情報: 重要種の確認状況等を整理する。

5. 調査結果とりまとめ

5.1 現地調査結果の整理

事前調査及び現地調査の結果について、事前調査様式及び現地調査様式にとりまとめる。

事前調査様式・現地調査様式一覧は、以下に示すとおりである。なお、各様式の記入例については、「7.様式集」に示す。

表 5.1 事前調査様式・現地調査様式一覧

様式名	概要	様式番号
植物 既往文献一覧表	調査区域周辺の植物に関する情報を記載している文献、報告書等の基本情報を整理する。	事前調査様式 1
植物 助言・聞き取り等調査票	河川水辺の国勢調査アドバイザー等学識経験者等の助言から得られた情報・知見を整理する。	事前調査様式 3
植物 現地調査票 1	調査地区ごとに、植物の確認状況等を記録する。	現地調査様式 1
植物 現地調査票 2	各調査地区の範囲、調査ルートを記録する。	現地調査様式 2
植物 重要種確認状況調査票 1	確認された植物のうち、重要種の確認状況を確認位置ごとに記録する。	現地調査様式 3
植物 重要種確認状況調査票 2	重要種の確認位置を記録する。	現地調査様式 4
植物 特定外来生物確認状況調査票 1	確認された植物のうち、特定外来生物の確認状況を確認位置ごとに記録する。	現地調査様式 5
植物 特定外来生物確認状況調査票 2	特定外来生物の確認位置を記録する。	現地調査様式 6
植物 同定文献一覧表	同定の際に用いた文献について記録する。	現地調査様式 7
植物 写真一覧表	撮影した写真について記録する。	現地調査様式 8
植物 写真票	撮影した写真について写真票を作成する。	現地調査様式 9
植物 標本管理一覧表	作製された標本について記録する。	現地調査様式 10
植物 移動中等における確認状況一覧表	調査地区間の移動中等に確認された植物について記録する。	現地調査様式 11
植物 その他の生物確認状況一覧表	植物以外の生物の確認状況を記録する。	現地調査様式 12
植物 調査実施状況一覧表	今回現地調査を実施した調査地区、調査時期について整理する。	現地調査様式 13
植物 調査地区位置図	当該調査区域における調査地区の位置が把握できるような調査地区位置図を作成する。	現地調査様式 14
植物 現地調査結果の概要	今回の現地調査の結果の概要について、文章でわかりやすく整理する。	現地調査様式 15

※事前調査様式 2（植物 文献概要記録票）はマニュアル改訂により廃止とした。

5.2 調査結果のとりまとめ

事前調査及び現地調査の結果を踏まえ、今回の河川水辺の国勢調査で得られた結果のとりまとめを行うことが望ましい。

とりまとめの参考となる整理様式一覧は、以下に示すとおりである。なお、各様式の記入例については、「7.様式集」に示す。

表 5.2 整理様式一覧

様式名	概要	様式番号
植物 重要種経年確認状況一覧表	既往及び今回の河川水辺の国勢調査において確認された重要種について整理する。	整理様式 1
植物 確認状況一覧表	今回の河川水辺の国勢調査において確認された植物について、季節、調査区別に整理する。	整理様式 2
植物 経年確認状況一覧表	既往及び今回の河川水辺の国勢調査において確認された植物について整理する。	整理様式 3
植物 種名変更状況一覧表	既往の河川水辺の国勢調査において確認された植物のうち、今回のとりまとめに際し、和名、学名を変更したものについて整理する。	整理様式 4
植物 確認種目録	今回の河川水辺の国勢調査において確認された植物について確認種目録を作成する。	整理様式 5

5.2.1 重要種の経年確認状況の整理

既往及び今回の河川水辺の国勢調査において確認された植物の重要種について、以下の項目を整理する(整理様式 1)。

整理に際し、和名、学名を変更したものについては、変更内容を別途整理する(整理様式 4)。

- (ア) 和名、指定区分: 確認された重要種の和名とその指定区分を記録する。
- (イ) 河川名、距離(km): 重要種が確認された河川名、河口からの距離(支川・支々川の場合は合流点からの距離)(km)を記録する。
- (ウ) 位置: 重要種が確認された位置について左岸・右岸・中洲・その他のいずれかを記録する。
- (エ) 河川水辺の国勢調査実施年度: 重要種が確認された河川水辺の国勢調査の実施年度(西暦)を記録する。
- (オ) 調査者(所属機関): 調査実施者の氏名、所属機関を記録する。
- (カ) 確認状況: 確認日、確認場所、確認環境、個体数等を記録する。

5.2.2 確認状況の整理

今回の河川水辺の国勢調査において確認された植物について、季節別、調査地区別に確認状況を整理する(整理様式 2)。

- (ア) No.: 整理番号を記録する。
- (イ) 科名、和名: 確認された植物の科名、和名を記録する。
- (ウ) 季節: 確認された植物の季節ごとの確認状況を記録する。
- (エ) 調査地区: 確認された植物の調査地区ごとの確認状況を記録する。
- (オ) 各調査地区における季節別確認状況: 確認された植物の各調査地区における季節ごとの確認状況を記録する。
- (カ) 移動中等: 移動中等における確認種として記録した種(「植物 移動中等における確認状況一覧表(現地調査様式 11)」参照)の確認状況を記録する。

5.2.3 経年確認状況の整理

既往及び今回の河川水辺の国勢調査において確認された植物について、以下の項目を整理する(整理様式 3)。

整理に際し、和名、学名を変更したものについては、変更内容を別途整理する(整理様式 4)。

- (ア) No.: 整理番号を記録する。
- (イ) 和名: 確認された植物の和名を記録する。
- (ウ) 河川水辺の国勢調査実施年度: 確認された河川水辺の国勢調査の実施年度(西暦)を記録する。
- (エ) 重要種: 重要種についてその指定区分を記録する。
- (オ) 外来種: 特定外来生物、生態系被害防止外来種、国外外来種について記録する。

5.2.4 種名の変更状況の整理

既往の河川水辺の国勢調査において確認された植物のうち、今回のとりまとめに際し、和名、学名を変更したものについて、以下の項目を整理する(整理様式 4)。

- (ア) 元の種名: 既往の河川水辺の国勢調査の結果における和名、学名を記録する。
- (イ) 変更種名: 変更後の和名、学名を記録する。
- (ウ) 河川水辺の国勢調査実施年度: 和名、学名を変更した種が確認されている河川水

辺の国勢調査の実施年度(西暦)を記録する。

(エ) 備考: 和名、学名の変更に際して特筆すべきことがあれば記録する。

5.2.5 植物確認種目録の整理

今回の河川水辺の国勢調査において確認された植物について、確認種目録を作成する(整理様式 5)。

(ア) No.: 整理番号を記録する。

(イ) 科名、和名、学名: 確認された植物の科名、和名、学名を記録する。

(ウ) 重要種: 重要種についてその指定区分を記録する。

(エ) 外来種: 特定外来生物、生態系被害防止外来種、国外外来種について記録する。

(オ) 初めて確認された種: 調査区域において既往の河川水辺の国勢調査で確認されておらず、今回の現地調査で初めて確認された種について記録する。

(カ) 生物リスト未掲載種: 「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」未掲載種について、「植物 同定文献一覧表(現地調査様式 7)」の同定文献 No.を記録する。

6. 考察・評価

今回の河川水辺の国勢調査で得られた結果について、考察及び評価を行い、考察様式にとりまとめる。なお、考察及び評価にあたっては、河川水辺の国勢調査アドバイザー等学識経験者等の助言を得る。

考察様式一覧は、以下に示すとおりである。なお、各様式の記入例については、「7.様式集」に示す。

表 6.1 考察様式一覧

様式名	概要	様式番号
植物 現地調査確認種について	今回の河川水辺の国勢調査において確認された重要種、外来種、特筆すべき種等について確認状況とその評価を整理する。	考察様式 1
植物の生育と河川環境の関わりについて	今回の河川水辺の国勢調査で得られた結果をもとに、植物の生育と河川環境との関わりについての考察及び評価を整理する。	考察様式 2
今回の植物調査全般に対するアドバイザー等の所見	今回の河川水辺の国勢調査に対する河川水辺の国勢調査アドバイザー等学識経験者等の所見を整理する。	考察様式 3

6.1 現地調査確認種について

今回の河川水辺の国勢調査において確認された重要種、外来種、特筆すべき種について、確認状況とその評価を整理する。初めて確認された種、既往調査で確認されていて今回の調査で確認されなかった種については、必要に応じ整理する(考察様式 1)。

整理対象とする種は、以下のとおりである。

- (ア) 重要種、外来種、特筆すべき種: 今回の河川水辺の国勢調査において確認された重要種、外来種、特筆すべき種。
- (イ) 初めて確認された種: 調査区域において既往の河川水辺の国勢調査で確認されておらず、今回の調査で初めて確認された種。
- (ウ) 既往調査で確認されていて今回の調査で確認されなかった種: 既往の河川水辺の国勢調査において確認されているが、今回の調査では確認されなかった種。

6.2 植物の生育と河川環境の関わりについて

今回の河川水辺の国勢調査で得られた結果をもとに、植物と河川環境の関わりについて考察及び評価し、整理する(考察様式 2)。

考察及び評価に際しての主な視点は、以下に示すとおりである。

- (ア) 既往と今回の河川水辺の国勢調査の結果を比較する。
- (イ) 今回の現地調査により確認された植物と調査地区の環境との関わりについて考察等をする。特に、重要種、外来種、特筆すべき種については詳細に考察等をする。
- (ウ) 河川改修、環境保全、環境創造を適切に推進する上での参考事項を抽出・整理する。

※これらの視点について、必要に応じて新たな視点を追加したりして考察及び評価を行うとよい。

6.3 今回の調査全般に対するアドバイザー等の所見

今回の河川水辺の国勢調査に対する河川水辺の国勢調査アドバイザー等学識経験者等の所見を整理する(考察様式 3)。

7. 様式集

とりまとめる様式一覧は、以下に示すとおりである。また、各様式の記入例を次頁以降に示す。

表 7.1 様式一覧

様式名	様式番号
植物 既往文献一覧表	事前調査様式 1
植物 助言・聞き取り等調査票	事前調査様式 3
植物 現地調査票 1	現地調査様式 1
植物 現地調査票 2	現地調査様式 2
植物 重要種確認状況調査票 1	現地調査様式 3
植物 重要種確認状況調査票 2	現地調査様式 4
植物 特定外来生物確認状況調査票 1	現地調査様式 5
植物 特定外来生物確認状況調査票 2	現地調査様式 6
植物 同定文献一覧表	現地調査様式 7
植物 写真一覧表	現地調査様式 8
植物 写真票	現地調査様式 9
植物 標本管理一覧表	現地調査様式 10
植物 移動中等における確認状況一覧表	現地調査様式 11
植物 その他の生物確認状況一覧表	現地調査様式 12
植物 調査実施状況一覧表	現地調査様式 13
植物 調査地区位置図	現地調査様式 14
植物 現地調査結果の概要	現地調査様式 15
植物 重要種経年確認状況一覧表	整理様式 1
植物 確認状況一覧表	整理様式 2
植物 経年確認状況一覧表	整理様式 3
植物 種名変更状況一覧表	整理様式 4
植物 確認種目録	整理様式 5
植物 現地調査確認種について	考察様式 1
植物の生育と河川環境の関わりについて	考察様式 2
今回の植物調査全般に対するアドバイザー等の所見	考察様式 3

※事前調査様式 2（植物 文献概要記録票）はマニュアル改訂により廃止とした。

植物 助言・聞き取り等調査票

地方整備局等名	事務所等名	水系名	河川名	調査年度
〇〇地方整備局	■■河川事務所	▲▲川	▲▲川	20XX

聞き取り No.	1	
相手	氏名	所属機関
	生活 太郎	〇〇県立大学生生活科学研究センター
当方	氏名	所属機関
	河川 大二郎	▲▲川河川事務所〇〇課
	大川 智紗	株〇〇研究所

日時 20XX 年 〇月 〇日 〇時 〇分 ～ 〇時 〇分

場所 〇〇県立大学生生活科学研究センター生物学研究室内

助言の内容

(既往文献)
 ・ 〇〇川については、19XX 年に総合学術調査が実施されており、その一環として植物相の調査も行われているため、その報告書を参考とする。
 (調査地区)
 ・ 〇〇橋付近は、水際から堤防まで多様な植生が発達しており、植物相も豊富であると考えられるため、植物相調査の調査地区とするとよい。
 (調査時期)
 ・ ▲▲川において、5 月中旬は春の開花種数がピークに達すると考えられる。この時期は、河川に特徴的な種である〇〇及び●●の開花期にあたり、これらを確認しやすい時期であると考えられる。

重要種、外来種、特筆すべき種に関する情報

(重要種)
 ・ アカウキクサが△△川で春季に確認されている。
 (外来種)
 ・ アレチギシギシが▲▲川の高水敷に点在している。

その他

・ 〇〇はこの地域のみに限定されるため、必ず確認できるようにする。
 ▲▲川の〇〇橋の捨石帯付近の岸近くで、〇〇を確認された。

植物 現地調査票 1

地方整備局等名	事務所等名	水系名	河川名	調査年度
〇〇地方整備局	■■河川事務所	▲▲川	▲▲川	20XX

調査地区	地区番号	地区名	距離 (km)	位置	総合調査地区	河床勾配
	▲▲■3	〇〇橋付近	〇～〇	右岸	☆	1/2000

調査時の 状況	調査回	季節	調査年月日	調査時刻			調査時間(時間)	天候
	1	春	20XX 年 5 月 25 日	13: 00	～	16: 00	3.0	晴れ

[illegible]

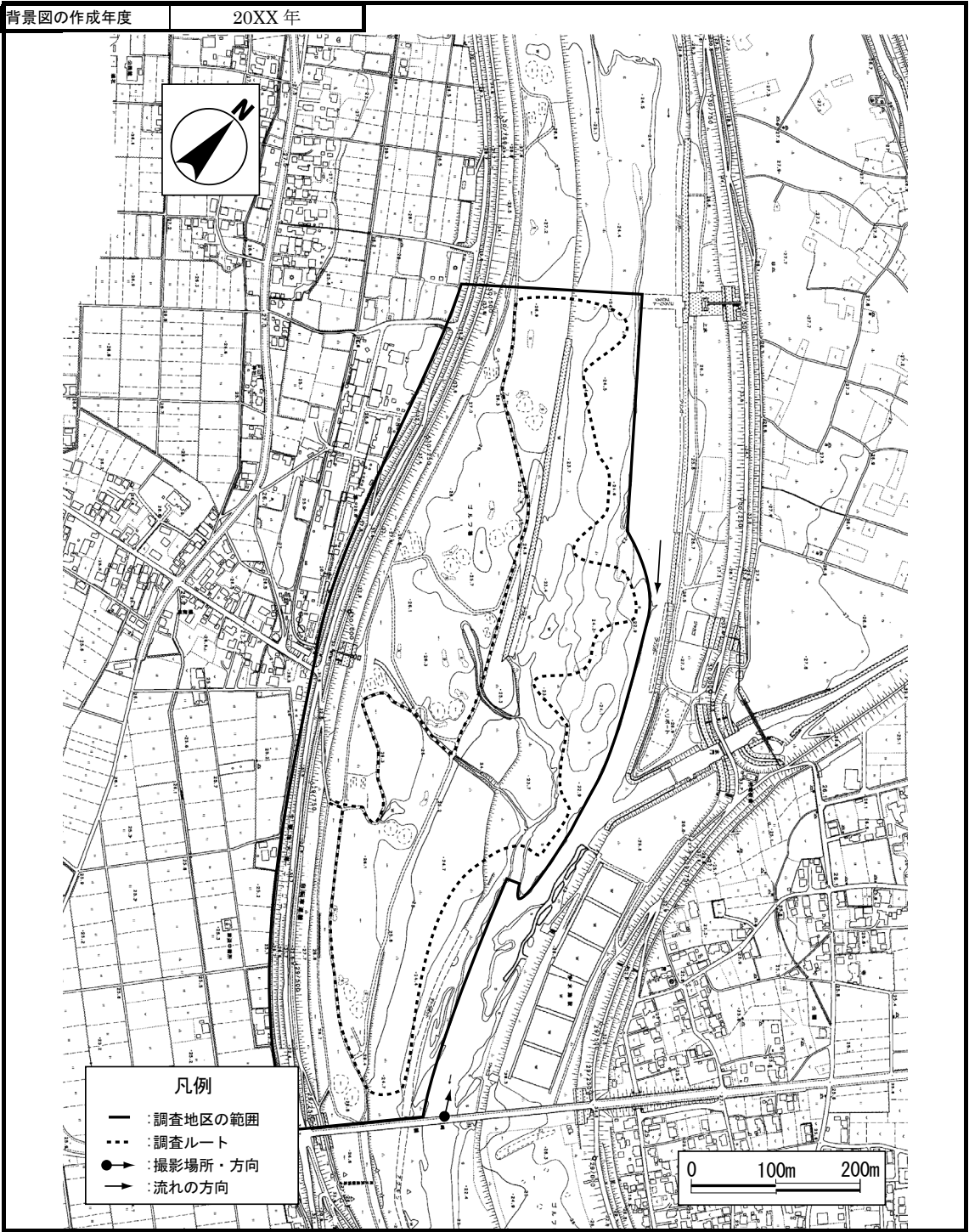
特記事項		項目	氏名	所屬機関
		調査責任者	大川 智紗	(株)〇〇研究所
		調査担当者	牧野 拓太郎	(株)〇〇研究所
				(株)〇〇研究所
		同定者	牧野 拓太郎	(株)〇〇研究所

植物 現地調査票 2

地方整備局等名	事務所等名	水系名	河川名	調査年度
〇〇地方整備局	■河川事務所	▲▲川	▲▲川	20XX

調査時期	調査回	季節	調査年月日
	1	春	20XX 年 5 月 25 日

調査地区	地区番号	地区名	距離 (km)	位置	総合調査地区	河床勾配
	▲▲■3	〇〇橋付近	〇～〇	右岸	☆	1/2000



植物 重要種確認状況調査票 1

地方整備局等名	事務所等名	水系名	河川名	調査年度
〇〇地方整備局	■●河川事務所	▲▲川	▲▲川	20XX

調査地区	地区番号 ▲▲■3	地区名 ○○橋付近	距離 (km) ○～○	位置 右岸	総合調査地区 ☆	河床勾配 1/2000
------	--------------	--------------	----------------	----------	-------------	----------------

調査時の 状況	調査回	季節	調査年月日	調査時刻			調査時間(時間)	天候
	1	春	20XX 年 5 月 25 日	13: 00	～	16: 00	3.0	晴れ

[illegible]

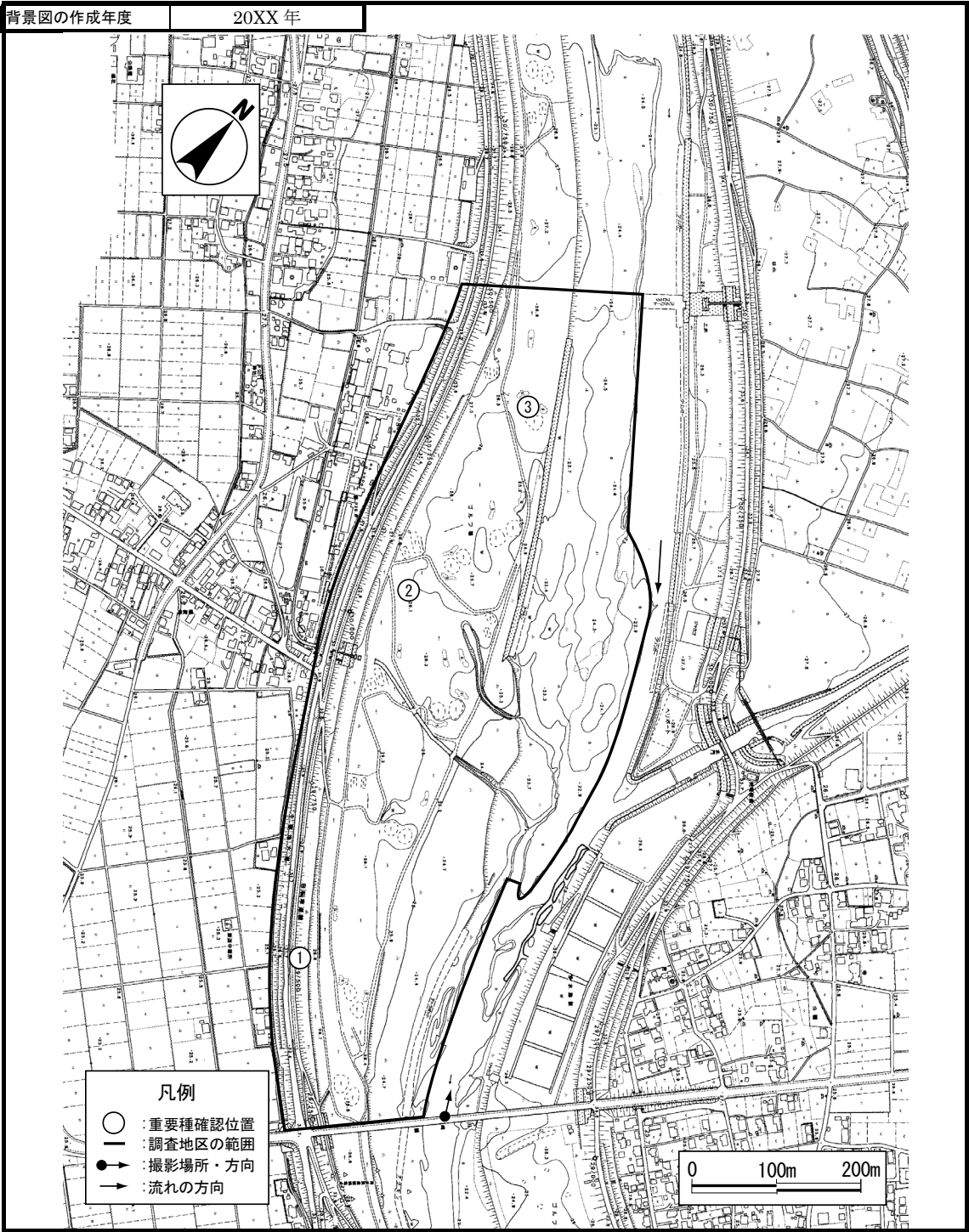
特記事項		項目	氏名	所属機関
		調査責任者	大川 智紗	(株)〇〇研究所
		調査担当者	牧野 拓太郎	(株)〇〇研究所
				(株)〇〇研究所
		同定者	牧野 拓太郎	(株)〇〇研究所

植物 重要種確認状況調査票 2

地方整備局等名	事務所等名	水系名	河川名	調査年度
〇〇地方整備局	■河川事務所	▲▲川	▲▲川	20XX

調査時期	調査回	季節	調査年月日
	1	春	20XX 年 5 月 25 日

調査地区	地区番号	地区名	距離(km)	位置	総合調査地区	河床勾配
	▲▲■3	〇〇橋付近	〇～〇	右岸	☆	1/2000



植物 特定外来生物確認状況調査票 1

地方整備局等名	事務所等名	水系名	河川名	調査年度
〇〇地方整備局	■ ■ 河川事務所	▲ ▲ 川	▲ ▲ 川	20XX

調査地区	地区番号	地区名	距離 (km)	位置	総合調査地区	河床勾配
	▲▲■3	○○橋付近	○～○	右岸	☆	1/2000

調査時の 状況	調査回	季節	調査年月日	調査時刻			調査時間(時間)	天候
	1	春	20XX 年 5 月 25 日	13: 00	～	16: 00	3.0	晴れ

[illegible]

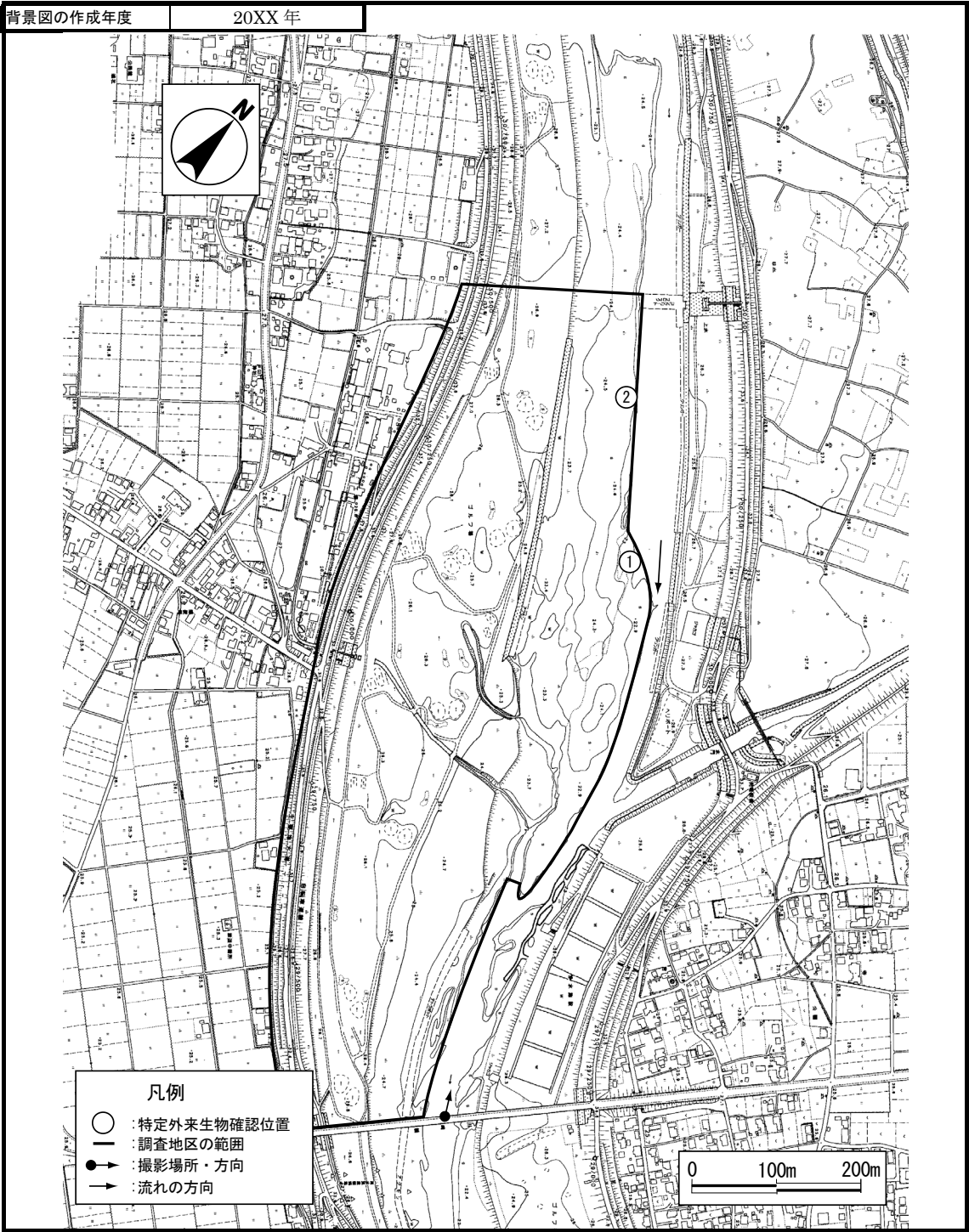
特記事項		項目	氏名	所属機関
		調査責任者	大川 智紗	(株)〇〇研究所
		調査担当者	牧野 拓太郎	(株)〇〇研究所
				(株)〇〇研究所
		同定者	牧野 拓太郎	(株)〇〇研究所

植物 特定外来生物確認状況調査票 2

地方整備局等名	事務所等名	水系名	河川名	調査年度
〇〇地方整備局	■河川事務所	▲▲川	▲▲川	20XX

調査時期	調査回	季節	調査年月日
	1	春	20XX 年 5 月 25 日

調査地区	地区番号	地区名	距離(km)	位置	総合調査地区	河床勾配
	▲▲■3	〇〇橋付近	〇～〇	右岸	☆	1/2000



植物 同定文献一覧表

地方整備局等名	事務所等名	水系名	河川名	調査年度
〇〇地方整備局	■河川事務所	▲▲川	▲▲川	20XX

同定文献 No.	文献名	著者名	発行 年	発行元	分類群
1	改訂新版 日本の野生植物 1	大橋広好ほか編	2015	平凡社	ソテツ科～カヤツリグサ科
2	改訂新版 日本の野生植物 2	大橋広好ほか編	2016	平凡社	イネ科～イラクサ科
3	改訂新版 日本の野生植物 3	大橋広好ほか編	2016	平凡社	バラ科～センダン科
4	改訂新版 日本の野生植物 4	大橋広好ほか編	2017	平凡社	アオイ科～キョウチクトウ科
5	改訂新版 日本の野生植物 5	大橋広好ほか編	2017	平凡社	ヒルガオ科～スイカズラ科
6	日本産シダ植物標準図鑑 1	海老原淳	2016	学研	シダ植物門
7	日本産シダ植物標準図鑑 2	海老原淳	2017	学研	シダ植物門
:	:	:	:	:	:

植物 写真一覧表

地方整備局等名	事務所等名	水系名	河川名	調査年度
〇〇地方整備局	■■河川事務所	▲▲川	▲▲川	20XX

[illegible]

写真区分記号

p: 調査地区等、c: 調査実施状況、s: 生物種、o: その他

植物 写真票

地方整備局等名	事務所等名	水系名	河川名	調査年度
〇〇地方整備局	■●河川事務所	▲▲川	▲▲川	20XX

写真番号	1		
写真区分記号	p		
写真表題			
調査地区の状況			
説明	〇〇橋より下流方向		
撮影年月日	20XX/05/25		
地区番号	▲▲■1		
地区名	〇〇橋下流		
距離 (km)	6.4～7.4		
位置	左岸		
ファイル名	p▲▲■1 全景 5 月. jpg		
写真番号	2		
写真区分記号	p		
写真表題			
調査地区の状況			
説明	〇〇川合流部		
撮影年月日	20XX/05/25		
地区番号	▲▲■2		
地区名	〇〇川合流部		
距離 (km)	10.4～11.4		
位置	右岸		
ファイル名	p▲▲■2 全景 5 月. jpg		
写真番号	3		
写真区分記号	s		
写真表題			
調査地区の状況			
説明	高水敷に 7 個体生育		
撮影年月日	20XX/05/25		
地区番号	▲▲■2		
地区名	〇〇川合流部		
距離 (km)	10.4～11.4		
位置	右岸		
ファイル名	s▲▲■2 ミゾコウジュ 5 月. jpg		

写真区分記号

p: 調査地区等、c: 調査実施状況、s: 生物種、o: その他

植物 標本管理一覽表

地方整備局等名	事務所等名	水系名	河川名	調査年度
〇〇地方整備局	■■事務所	▲▲川	▲▲川	20XX

[illegible]

植物 移動中等における確認状況一覧表

地方整備局等名	事務所等名	水系名	河川名	調査年度
〇〇地方整備局	■●河川事務所	▲▲川	▲▲川	20XX

[illegible]

植物 その他の生物確認状況一覧表

地方整備局等名	事務所等名	水系名	河川名	調査年度
〇〇地方整備局	■■河川事務所	▲▲川	▲▲川	20XX

No.	生物項目	目名	科名	和名	学名	写真	標本	地区番号	河川名	距離(km)	位置	緯度	経度	調査年月日	確認状況	同定者 (所属機関)
1	両生類・爬虫類・哺乳類	ウシ目(偶蹄目)	ウシ科	カモシカ	<i>Capricornis crispus</i>			調査地区外	▲▲川	43.0	左岸	35.1234567	139.1234567	20XX年〇月〇日	山地の斜面で死体を確認。	河原大二郎 ((株)〇〇研究所)
:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:

植物 調査実施状況一覧表

地方整備局等名	事務所等名	水系名	河川名	調査年度
〇〇地方整備局	■河川事務所	▲▲川	▲▲川	20XX

調査地区

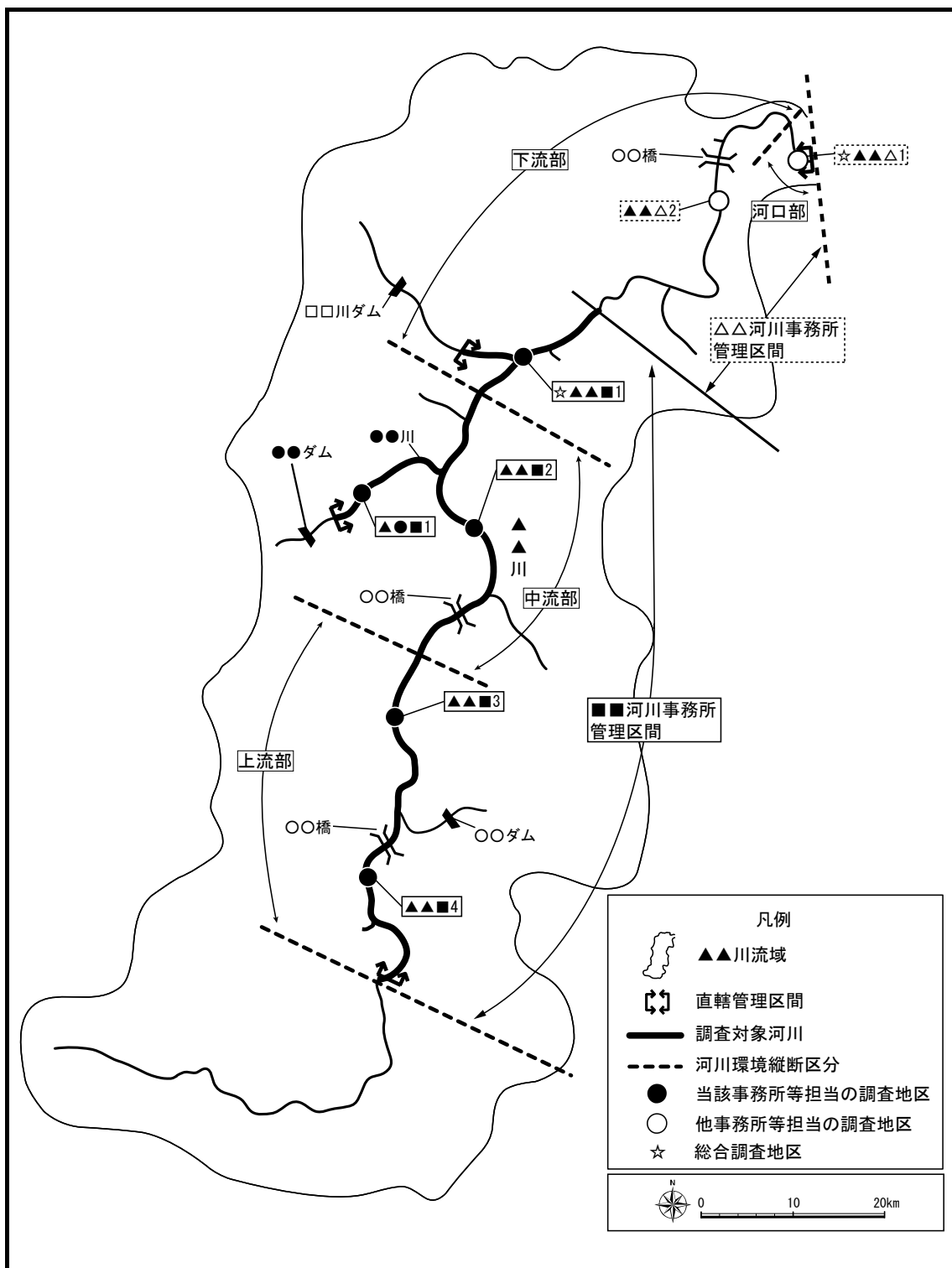
河川名	河川環境 縦断区分	地区 番号	地区名	距離 (km)	位置	総合 調査 地区	河床 勾配	地区の特徴	調査地区 選定根拠	前回調査地区 との対応	全体調査計画 との対応
▲▲川	下流部	▲▲■1	〇〇橋 下流	50.0～ 50.5	右岸	☆	1/1000	川沿いにヨシ群落、オギ群落、ヨモギ等の草地、ヤナギ低木林が広がり、河原も存在している。また、畑地等の耕作地にも利用され、小規模ながら溜池やコナラ林も存在する。堤内地は集落や水田として利用されている。	川沿いにヨシ群落、オギ群落が広がり、高水敷の一部は耕作地に利用されている下流域の代表的な調査地区である。また、溜池や樹林地もみられる等多様な環境を呈している。	全体調査計画の▲▲■1と同じ	全体調査計画の▲▲■1と同じ
：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：

調査時期

調査回	季節	調査年月日	調査時期選定根拠	地区番号
1	春季	20XX 年 5 月 25 日～5 月 28 日	春の開花種数がピークに達すると考えられる時期であるため。	▲▲■1、▲▲■2、 ▲▲■3、▲▲■4、 ▲●■1
2	秋季	20XX 年 10 月 25 日～10 月 28 日	河川に特徴的な種である〇〇及び〇〇の開花期にあたりこれらを確認しやすい時期であるため。	▲▲■1、▲▲■2、 ▲▲■3、▲▲■4、 ▲●■1
：	：	：	：	：

植物 調査地区位置図

地方整備局等名	事務所等名	水系名	河川名	調査年度
〇〇地方整備局	■河川事務所	▲▲川	▲▲川	20XX



植物 現地調査結果の概要

地方整備局等名	事務所等名	水系名	河川名	調査年度
〇〇地方整備局	■●河川事務所	▲▲川	▲▲川	20XX

現地調査結果の概要

重要種に関する情報

植物 重要種経年確認状況一覧表

地方整備局等名	事務所等名	水系名	河川名	調査年度
〇〇地方整備局	■●河川事務所	▲▲川	▲▲川	20XX

和名	指定区分	河川名	距離 (km)	位置	河川水辺の国勢調査実施年度				調査者 (所属機関)	確認状況
					19XX	19XX	20XX	20XX		
マツモ	●●県Ⅱ	▲▲川	11.0	左岸		○			岡野棕欄八((株) 〇〇研究所)	19XX 年○月○日、▲▲■1 の池中に生育。
		▲▲川	11.0	左岸				○	牧野拓太郎((株) 〇〇研究所)	20XX 年○月○日、▲▲■1 の池中に生育。
ミゾコウジュ	準絶滅	▲▲川	13.8	左岸		○			岡野棕欄八((株) 〇〇研究所)	19XX 年○月○日、▲▲■3 のヤナギタデ群落内及び隣 接する砂地に数株が点在。
		▲▲川	13.8	左岸			○		荻原吉子(××コ ン)	20XX 年○月○日、▲▲■3 のヤナギタデ群落内に数株 が点在。
		▲▲川	12.0～ 13.5	左岸				○	牧野拓太郎((株) 〇〇研究所)	20XX 年○月○日、▲▲■3 の表法や草地に生育。
：	：	：	：		：	：	：	：	：	：

【重要種】

国天：	国指定天然記念物
県天：	都道府県指定の天然記念物
市天：	市町村指定天然記念物
保存：	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種
：	：
危惧Ⅰ：	環境省NRL・NRDB 絶滅危惧Ⅰ類
危惧ⅠA：	環境省NRL・NRDB 絶滅危惧ⅠA類
危惧ⅠB：	環境省NRL・NRDB 絶滅危惧ⅠB類
危惧Ⅱ：	環境省NRL・NRDB 絶滅危惧Ⅱ類
準絶滅：	環境省NRL・NRDB 準絶滅危惧
：	：
●●県Ⅰ：	●●県編(20XX)「●●県の絶滅のおそれのある野生動物」 絶滅危惧Ⅰ類
●●県Ⅱ：	●●県編(20XX)「●●県の絶滅のおそれのある野生動物」 絶滅危惧Ⅱ類
：	：
その他	

植物 確認状況一覧表

地方整備局等名	事務所等名	水系名	河川名	調査年度
〇〇地方整備局	■●河川事務所	▲▲川	▲▲川	20XX

[illegible]

植物 経年確認状況一覧表

地方整備局等名	事務所等名	水系名	河川名	調査年度
〇〇地方整備局	■河川事務所	▲▲川	▲▲川	20XX

No.	和名	河川水辺の国勢調査実施年度				重要種	外来種
		19XX	19XX	20XX	20XX		
1	トウゲシバ	○		○			
2	クラマゴケ		○	○	○		
3	スギナ	○		○	○		
4	ミズドクサ		○	○			
5	イヌスギナ	○	○	○			
6	ヤマハナワラビ	○	○	○			
7	ハナヤスリ科		○	○			
8	アレチウリ			○	○		特定・国外 総合対策（緊急）
9	マツモ		○		○	●●県Ⅱ	
10	タコノアシ	○	○	○	○	準絶滅	
11	ミゾコウジュ	○	○	○	○	準絶滅	
:	:	:	:	:	:	:	:
種数		121	125	122	124		

- 【重要種】
- 国天： 国指定天然記念物
- 県天： 都道府県指定の天然記念物
- 市天： 市町村指定天然記念物
- 保存： 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種
- ：
- ：
- 危惧Ⅰ： 環境省NRL・NRDB 絶滅危惧Ⅰ類
- 危惧ⅠA： 環境省NRL・NRDB 絶滅危惧ⅠA類
- 危惧ⅠB： 環境省NRL・NRDB 絶滅危惧ⅠB類
- 危惧Ⅱ： 環境省NRL・NRDB 絶滅危惧Ⅱ類
- 準絶滅： 環境省NRL・NRDB 準絶滅危惧
- ：
- ：
- 県Ⅰ： ●●県編(20XX)「●●県の絶滅のおそれのある野生動物」 絶滅危惧Ⅰ類
- 県Ⅱ： ●●県編(20XX)「●●県の絶滅のおそれのある野生動物」 絶滅危惧Ⅱ類
- その他

- 【外来種】
- 特定： 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」指定の「特定外来生物」
- 国外： おおよそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物(国外外来種)
- 生態系被害： 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト掲載種（生態系被害防止外来種）

※1： 生態系被害防止外来種の記載については、カテゴリとして定着予防(侵入予防)、定着予防（その他）、総合対策（緊急）、総合対策（重点）、総合対策（その他）、産業管理のいずれか該当するものを記載する。

植物 種名變更狀況一覽表

地方整備局等名	事務所等名	水系名	河川名	調査年度
〇〇地方整備局	■●河川事務所	▲▲川	▲▲川	20XX

元の種名		変更種名		河川水辺の国勢調査 実施年度	備考
和名	学名	和名	学名		
ニセアカシア	<i>Robinia pseudoacacia</i>	ハリエンジュ	<i>Robinia pseudoacacia</i>	19XX	
：	：	：	：	：	：

植物 確認種目録

地方整備局等名	事務所等名	水系名	河川名	調査年度
〇〇地方整備局	■●河川事務所	▲▲川	▲▲川	20XX

[illegible]

【重要種】

国天:	国指定天然記念物
県天:	都道府県指定の天然記念物
市天:	市町村指定天然記念物
保存:	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種
：	

危惧 I :	環境省 N R L・N R D B	絶滅危惧 I 類
危惧 I A :	環境省 N R L・N R D B	絶滅危惧 I A 類
危惧 I B :	環境省 N R L・N R D B	絶滅危惧 I B 類
危惧 II :	環境省 N R L・N R D B	絶滅危惧 II 類
準絶滅 :	環境省 N R L・N R D B	準絶滅危惧

●●県Ⅰ： ●●県編(20XX)「●●県の絶滅のおそれのある野生動物」 絶滅危惧Ⅰ類
 ●●県Ⅱ： ●●県編(20XX)「●●県の絶滅のおそれのある野生動物」 絶滅危惧Ⅱ類
 その他

【外来種】

特定: 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」指定の「特定外来生物」
 国外: おおよそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物(国外外来種)
 生態系被害: 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト掲載種(生態系被害防止外来種)

※1: 生態系被害防止外来種の記載については、カテゴリとして定着予防(侵入予防)、定着予防(その他)、総合対策(緊急)、総合対策(重点)、総合対策(その他)、産業管理のいずれか該当するものを記載する。

植物 現地調査確認種について

地方整備局等名	事務所等名	水系名	河川名	調査年度
〇〇地方整備局	■●河川事務所	▲▲川	▲▲川	20XX

区分	和名	確認状況とその評価
重要種	マツモ	前回の調査(19XX 年度)に引き続き▲▲▲1 の池中で多数生育するのを確認した。
外来種		
特筆すべき種		
：	：	：

植物の生育と河川環境の関わりについて

地方整備局等名	事務所等名	水系名	河川名	調査年度
〇〇地方整備局	■河川事務所	▲▲川	▲▲川	20XX

今回の植物調査全般に対するアドバイザー等の所見

地方整備局等名	事務所等名	水系名	河川名	調査年度
〇〇地方整備局	■河川事務所	▲▲川	▲▲川	20XX